



# 山口市総合計画

～後期まちづくり計画～

平成25年度～29年度 概要版



## はじめに

本市においては、「平成の大合併」の大きな流れの中で、平成17年10月に旧1市4町が合併し、平成22年1月には旧阿東町と合併し、地方分権時代に対応した行財政基盤の強化とともに、これからのまちづくりに向けた基盤づくりを進めてきたところです。

近年、地方都市や本市をとりまく状況は従来の予想を上回る速さで変化しており、本格的な高齢社会や人口減少社会の到来、そしてグローバル化の進展などは地域社会の在り方に様々な影響をもたらしています。

また、これまで我々に「豊かさ」をもたらした地方都市の成長モデルも、日本経済全体が低迷する中で機能しなくなっており、地方都市は農林漁業の再生、国土保全、コミュニティの再構築などの課題に柔軟かつ迅速に対応しつつ、新たな発展に向けて自ら考え積極的な行動を起こしていく必要があります。

本市には、県庁所在都市として蓄積された高次な都市機能や広域交通の結節機能をはじめ、豊かな自然から生み出される多様な地域資源、人々の生活を支える快適な生活環境といった都市としての特性と強みがあります。

後期まちづくり計画は、こうした強みを着実に本市の成長や発展につなげるとともに、5年先のみならず、10年あるいは四半世紀先を見据えた本市のまちづくりの道筋と具体的な方策を明らかにするものです。前期まちづくり計画の施策別計画を継承しつつ6つの重点戦略を盛り込み、各計画を効果的に展開していくこととしております。

計画の推進にあたっては、地域社会を構成する市民、企業、団体等、また行政をはじめとした様々なまちづくりの主体や関係者が明確なビジョンと進むべき方向性を共有しつつ、近隣自治体との連携も含めた総合力で行動することが求められています。ぜひ、多くの方々の力を結集し、美しい“ふるさと”を守り、誰もが住み続けたい、住んでよかったと実感できるまちづくりを進めて参りたいと考えております。

最後に、本計画の策定にあたり、本市の将来を考え熱心に御審議や御検討をいただきました総合計画策定協議会、まちづくり審議会の皆様、そして市民意識調査等を通じて御協力いただきました多くの市民の皆様に対しまして心からお礼申し上げます。



平成25年(2013年)3月  
山口市長 渡辺 純忠

## 【第1章】序章

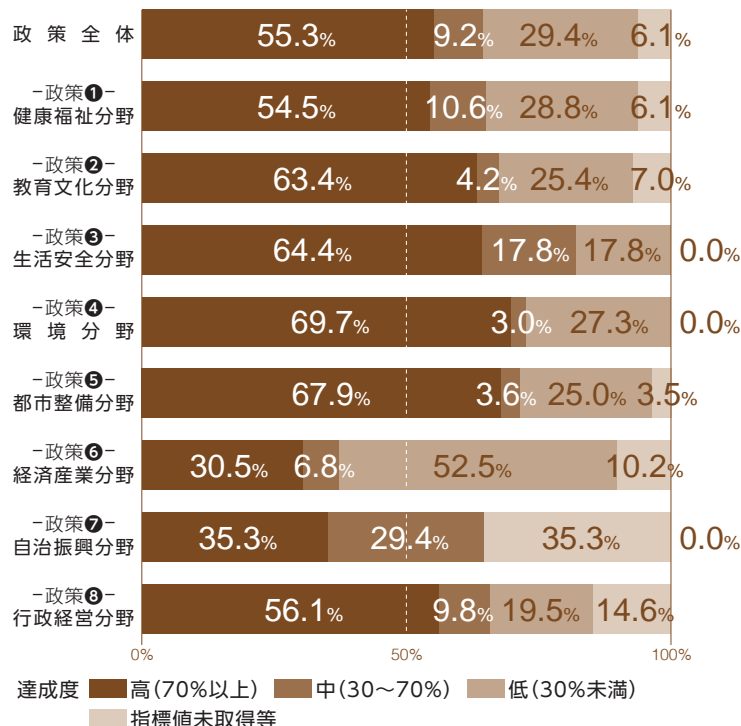
### 1 後期まちづくり計画策定の趣旨と役割

現在の山口市総合計画は、合併により誕生した新しい「山口市」の長期的なまちづくりの方向性を示す計画として策定したものです。

これまで進めてきたまちづくりの施策、基本事業の成果指標については、平成23年度末時点において全体で約5割弱が中間目標(24年度)を達成するなど、概ね順調に推移しているところです。しかし、社会経済情勢は計画策定時に比べ予想を超えるスピードで変化し、また平成22年1月に実施された阿東地域との合併後の課題を整理する必要があります。こうした背景を踏まえ、まちづくりの課題と取組みの方向性をより明確化し、市民、企業、市民活動団体等との共有化を図るために、山口市総合計画後期まちづくり計画を策定しました。

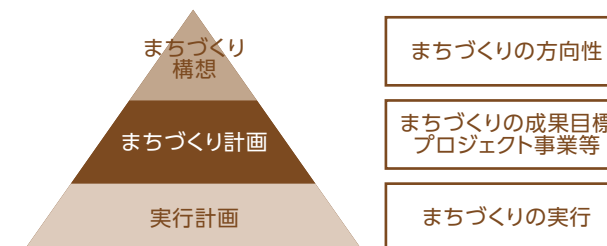
360の成果指標の中間目標に対する平成23年度時点の達成状況は、政策全体では、「高(達成度70%以上)」が全体の約55%、「中(達成度30%以上70%未満)」が約9%、「低(達成度30%未満)」が約29%となっています。

#### ■前期まちづくり計画の進捗状況(中間目標に対する達成度)



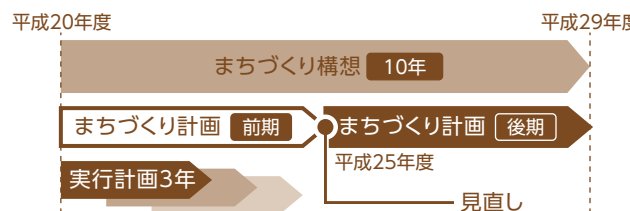
### 2 計画の位置づけ

#### ■山口市総合計画の構成



### 3 計画期間及び目標年次

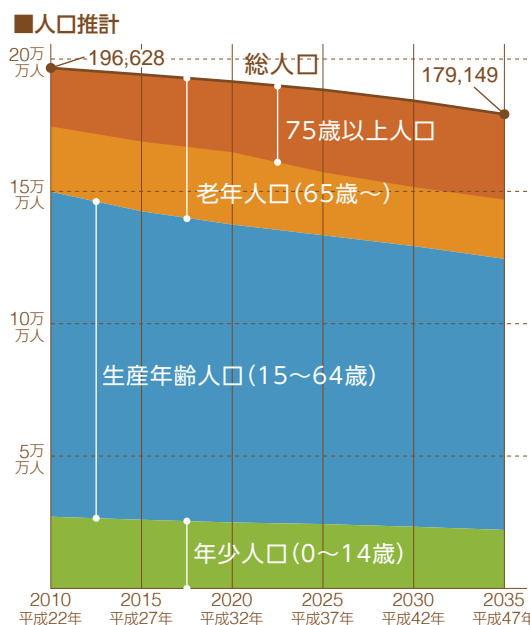
山口市総合計画後期まちづくり計画は、平成25年(2013年)度から平成29年(2017年)度の5年間を計画期間とし、平成30年(2018年)を目標年次とします。



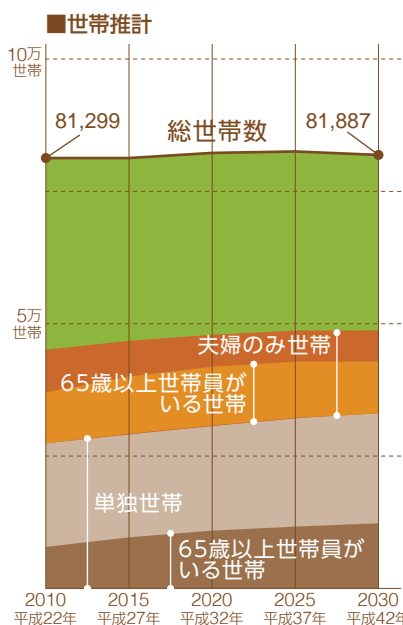
## 【第2章】時代背景、山口市の概況

### 1 少子高齢化・人口減少社会

山口市は人口減少に転じており、今後さらに人口減少が進むことや生産年齢人口が減少する一方で老年人口や高齢者の単独世帯



とが予測されます。また、年少人口が増加していきます。



[出典:平成22年は国勢調査、平成27年以降は市推計]

### 2 グローバル化の進展

経済や文化をはじめとしたさまざまな分野でグローバル化が急速に進んでいます。特に自由貿易圏づくりの進展は、地域社会にも大きな影響をもたらすことが予想されます。

### 3 地方分権の新たな潮流

平成の大合併を経て地方でも行財政基盤の強化など地方分権の受け皿づくりが進んできています。道州制の可能性も含めたさらなる地方分権に対応できるまちづくりが求められています。

### 4 東日本大震災後の安心・安全意識の高まり、環境意識の高まり

未曾有の大災害となった東日本大震災をはじめ、局地的な集中豪雨の多発などにより全国的に大きな被害が続出し、市民の安心・安全に対する意識は高まっており、あらゆる災害を想定した取組みを強化していく必要があります。

### 5 豊かな地域資源を生み出す自然環境の保全と地域資源の活用

本市の多様な自然環境から生み出されている豊かな地域資源を生かして、新たな経済的価値を生み出す仕組みづくりや持続可能な地域づくりを行っていく必要があります。



# 【第3章】後期まちづくりの基本方針

## 1 まちづくりの基本的な方向性

少子高齢社会、本格的な人口減少社会を迎える中、新しい価値観としての持続可能性や生活の「質」を高めていくことに視点をおき、市の特性を生かした“山口らしい”地域社会の構築や都市の成長モデルを描いていく必要があります。

### 幸福感、安心感を実感できる日々の暮らし、それを支える“人々の絆”と温かみのある地域社会

山口市で暮らすなかで質の高い市民生活が実感できるよう、ライフステージごと、あるいは地域ごとの課題にきめ細やかに対応できる人々の絆と心の温かさにあふれた地域社会を構築していきます。

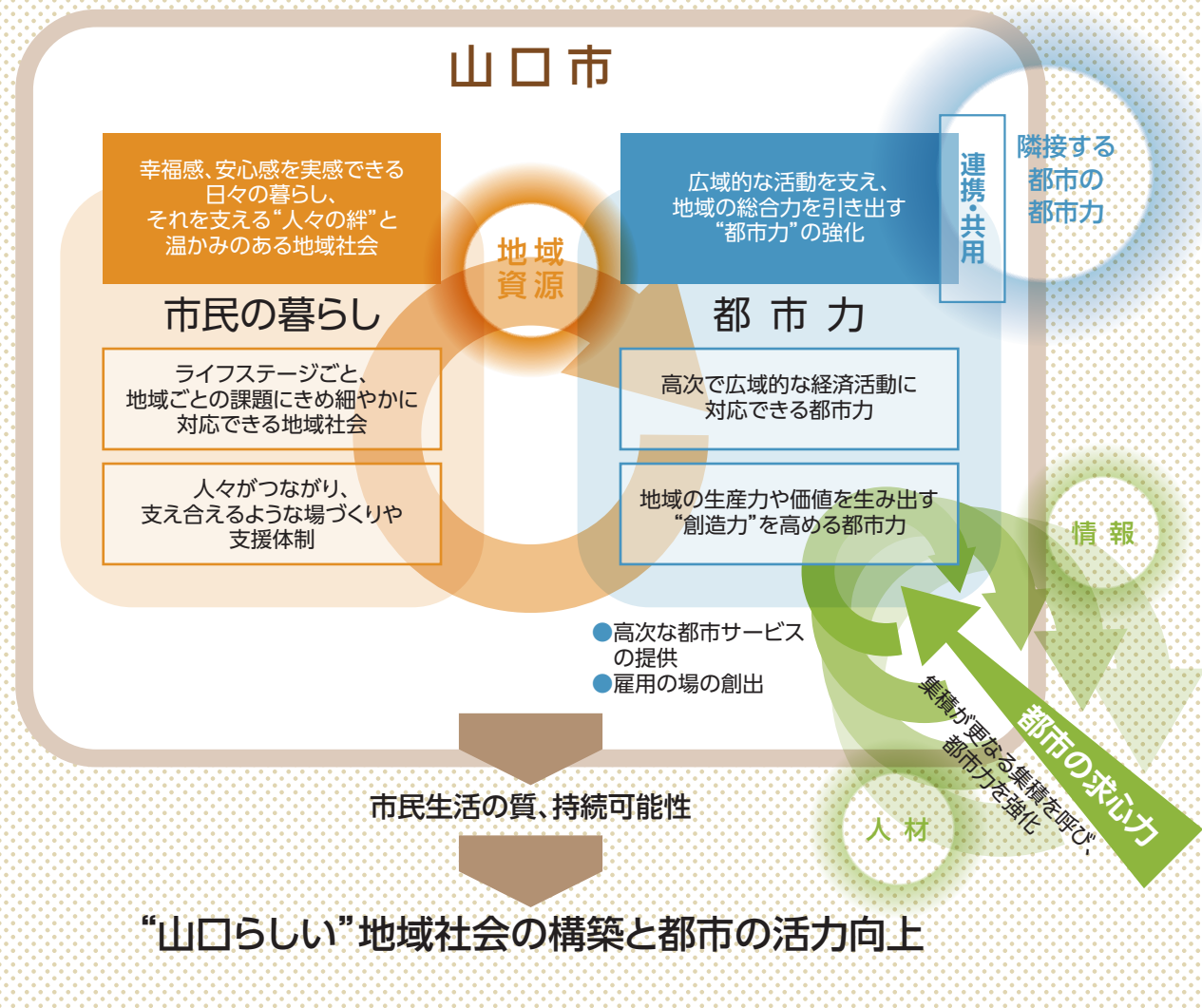
また、喜びや悲しみが分かち合える共有意識や地域づくりへの参加意識や帰属意識等が自然と芽生えるよう、地域を中心とした「ボランティア活動」「文化・スポーツ活動」など人々がつながり、支え合えるような場づくりや支援体制も強化していきます。

### 広域的な活動を支え、地域の総合力を引き出す“都市力”の強化

市として、人々の基本的な営みを支えて多様なニーズを充足し、企業活動を総合的にサポートする機能や医療・福祉・教育分野における対個人サービス機能の立地・集積を図り、高次の経済活動に対応し農山漁村の地域力を高める“総合的な解決力”、「人」「情報交流」「知財」の集積によって新たな価値を生み出す“ソフト力・創造力”などを高めていきます。

また、山口市の特徴である「豊かな自然環境」と「快適な生活環境」「歴史資源」「文化の蓄積」とともに都市としての魅力や価値を高め、雇用の場の創出や定住人口の増加につなげていきます。さらに隣接する都市と連携して高次の都市機能・地域資源を共用していくことで、持続可能な圏域づくりに貢献していきます。

### ■まちづくりの基本的な方向性(イメージ)



## 2 将来都市像と後期まちづくりの主要テーマ

### 将来都市像

# 「ひと、まち、歴史と自然が輝く 交流と創造のまち 山口」

### ■将来都市像を実現するための政策の柱

## 「協働によるまちづくり」「広域県央中核都市の創造」

### ■テーマ

## 「住み続けたい、住んでよかった 山口市」

## 3 やまぐち方式の地域自治の強化、地域内分権の推進

「協働のまちづくり条例」の施行や市内21地域の地域交流センターを拠点に、地域住民や現場に近い職員が地域課題を主体的に解決できる仕組みづくり、地域自治の強化、地域内のさまざまな団体が連携・協力して地域づくりに取り組む「地域づくり協議会(地域自治組織)」の組織化等に力を入れてきました。

引き続き地域づくり交付金の充実や人的支援など地域づ

くり協議会の体制強化を図っていくとともに、地域交流センター等の行政組織にも財源・権限等を委譲して総合的な地域づくりを行えるような体制を整備していきます。農山漁村地域では、日常生活機能を維持するとともに地域の産業等を守っていくために集落・地域間の連携、補完関係を更に強めていきます。

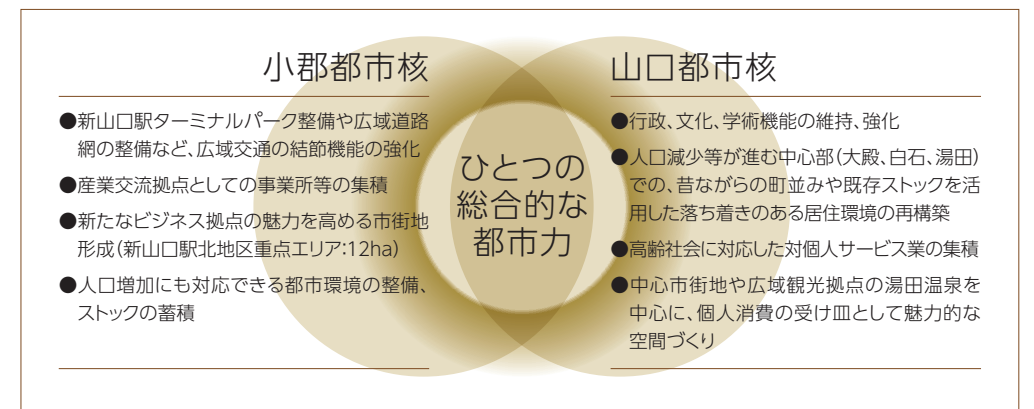
## 4 広域的な視点に立った都市づくり

山口県中部エリアでは、人口60万～70万人規模の圏域を構成するそれぞれの都市が交通インフラや産業といった都市機能を分担・共有し連携を図ることで高次の都市機能の維持・強化を図り、経済的価値や雇用の創出を図っていく必要があります。

基幹的交通インフラの整備、地域課題の総合的な解決、都市づくりや企業活動を支える人材の育成、広域観光や中小企業の技術革新仕組みづくりなど行政区域を越えた連携・ネットワーク化・重層化を促し、圏域の発展に貢献していきます。

### ■広域県央中核都市の創造

広域経済・交流圏の中で山口・小郡の両都市核を中心に求心力を発揮し、圏域の発展に貢献できる「広域県央中核都市」を創造していきます。また、地方分権の受け皿として、各種権限、財源の移譲に伴う多様な行政需要に応える行政運営とともに、地域・圏域を支える自立した都市経営を展開できる都市づくりを進めていきます。



5 豊かな地域資源と人々のつながりが創り出す循環する地域経済

本市が有する豊かな地域資源を有効に活用して、経済的な価値を生み出し、働く場を創出していく必要があります。画一的なサービスではなく、個々の価値観、ライフスタイル

にあった創造的なサービスを提供できる産業、事業者等を育成していくことが求められます。

6 目指すべき都市構造等

■重層的集約型都市構造の構築(「集約化」「ネットワーク」)

広域県央中核都市づくりや協働によるまちづくりを効果的、効率的に展開するために、地域、拠点の特性に応じた機能の「強化・集積」、「連携・補完」を図っていきます。

■土地利用の方針

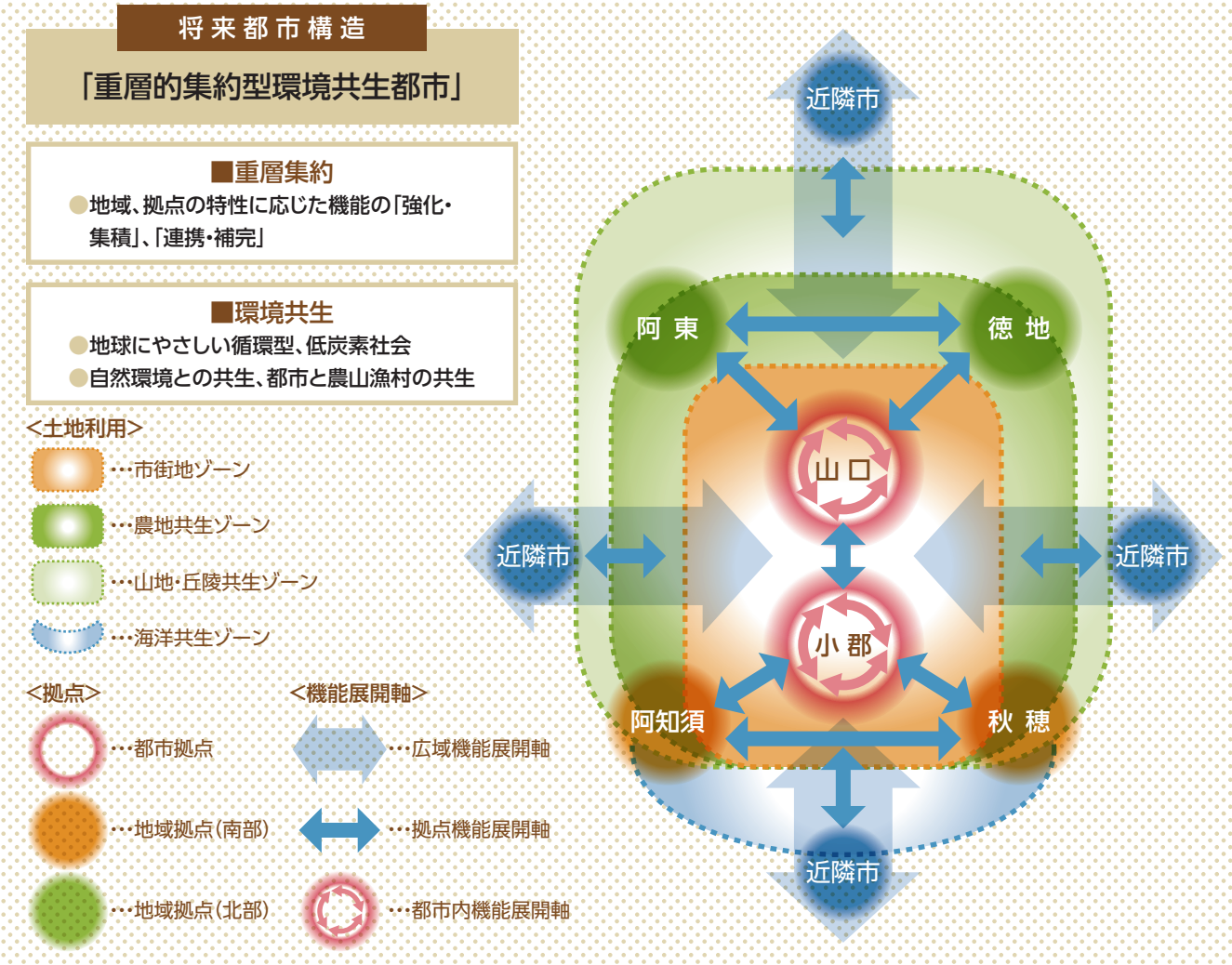
土地利用については、地域の特性に応じた拠点の形成と環境に配慮した集約型の都市構造の形成を基本とします。

■社会資本整備の方向性

厳しい財政状況と既存ストックの老朽化への対応など公共投資を取り巻く状況は厳しいことから、国の定める「社会資本整備重点計画」を参考に、下記の視点を基準に事業投資の「選択と集中」を図っていきます。

- ①大規模又は広域的な災害リスクを低減させるもの
- ②新たな価値を創出し、本市及び圏域の産業・経済を発展、成長させる産業基盤
- ③地球規模の環境変化や人口減少社会に対応した持続可能な地域づくりを可能にする生活基盤等
- ④社会資本の的確な維持管理・更新を行うもの

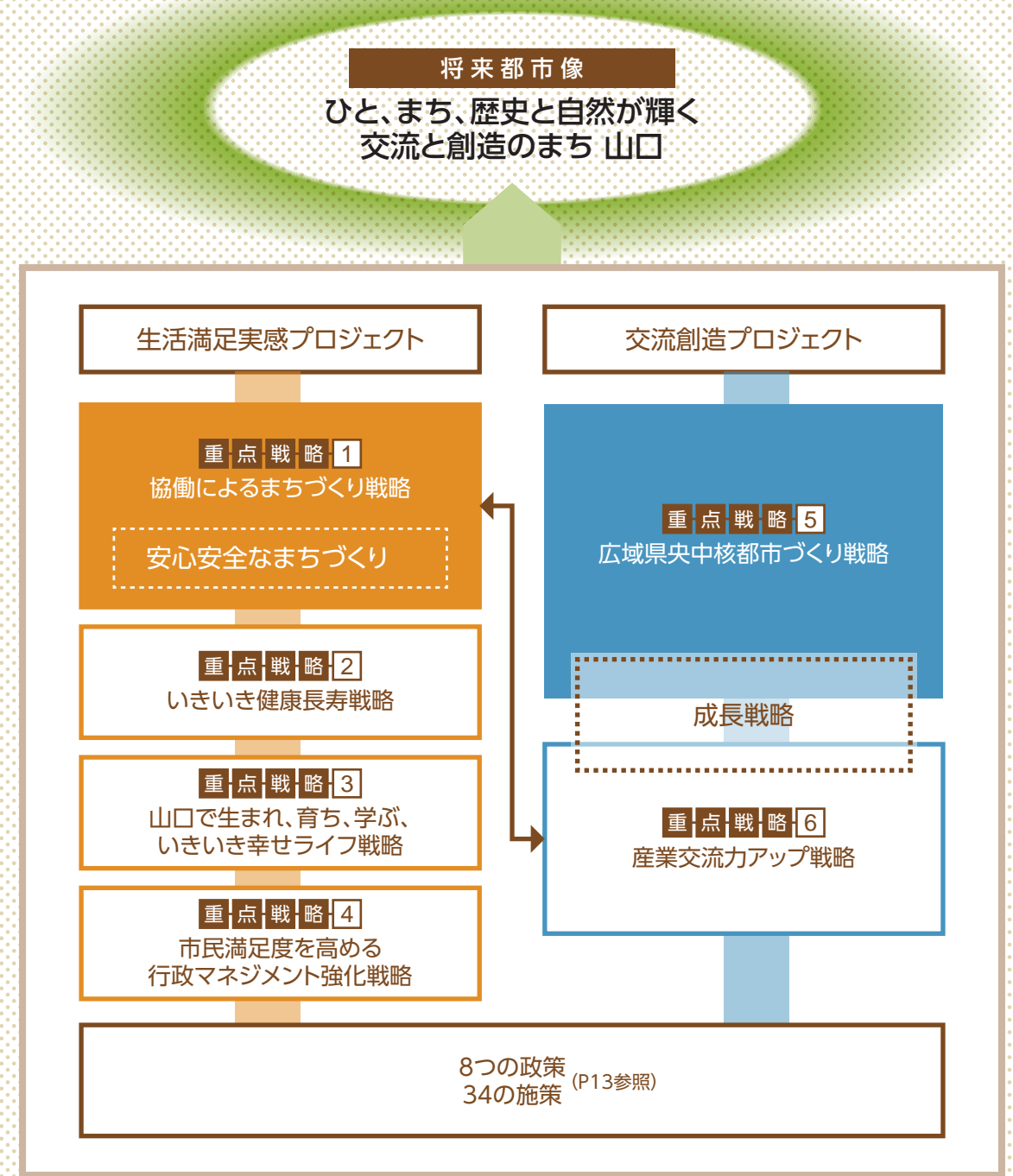
■将来都市構造概念図



【第4章】後期まちづくりの重点戦略

将来都市像の実現に向け、分野別施策の枠を超えて後期まちづくりの重点戦略を構築し、各種事業を効果的に展開していきます。

■後期まちづくりの重点戦略



●プロジェクト

将来都市像を実現するために重点的かつ先導的な取組みの方向性を示すもの。「生活満足実感プロジェクト」は市民生活の質や市民の満足度を高めていくことに、「交流創造プロジェクト」は新たな価値を生み出し、まちの活力を高めていくことに主眼をおいた方向性としている。

●戦略

各プロジェクトを実現するための政策。実現するための具体的な事業については、毎年度策定する実行計画の中で明らかにしていく。

●8つの政策・34の施策

「政策」とは、山口市のめざすまちの姿を実現するための柱となるもの。「施策」とは政策を実現するための手段で、その達成度や進捗状況がわかるように、施策ごとに成果指標と目標値が設定されている。



## 重点戦略1 協働によるまちづくり～人々の絆に支えられた温かみのある地域社会～

人々の絆に支えられた温かみのある地域社会を構築していくため、多くの市民に地域づくりを実践しているという参加意識・帰属意識等が自然と芽生えるように、人々が「つながる」「支えあえる」場づくりや支援体制を強化していきます。

### I やまぐち式協働のまちづくり

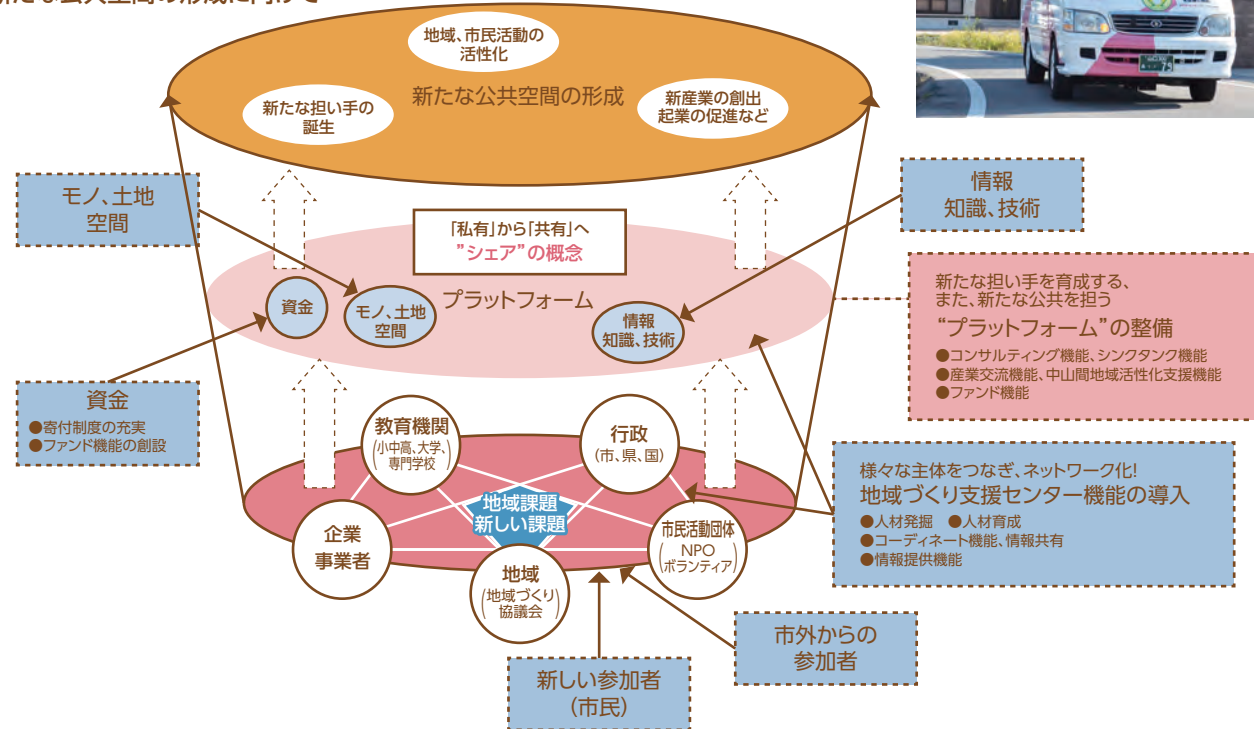
- 地域づくり交付金の拡充や人的支援、社会教育の充実等による人づくり機能の強化
- 総合支所、地域交流センター等の行政機関の役割を整理し、地域内分権を推進
- 老朽化した施設の建替やバリアフリー化等の計画的な進行
- 地域づくりを推進するための人材育成、専門的な支援を行う中間支援組織の導入



### II 新たな公共空間の形成

- コミュニティ交通の充実、大学・企業との連携による地域課題解決のスキームの構築等、プラットフォーム機能の充実

#### ■新たな公共空間の形成に向けて



### III 安心、安全なまちづくりプロジェクト

- 災害時応急対策用名簿の作成や防災訓練の実施、備蓄品等の確保、自主防災組織の整備と育成・連携などにより、地域防災力の強化
- デジタル防災行政無線の整備、防災情報配信機能の充実、サイレンの設置、河川改修整備、雨水貯留施設の整備、海岸保全施設の整備等、災害リスクを低減させるハードの整備

## IV 文化、スポーツで地域元気プロジェクト

- 多様なスポーツや競技スポーツの受け皿づくりへの支援等を行い、地域力をパワーアップさせる
- 大内文化まちづくり推進、地域の歴史資源等の再整備および付加価値化等、歴史・文化・芸術による地域の個性、誇りづくりの推進



## 重点戦略2 いきいき健康長寿～健康都市づくりの推進～

ライフステージに応じて市民一人ひとりが健康を実感し、いきいきとした生活が送れるように、個人が日々の生活で健康づくりを実践していくことはもちろん、「家庭」「地域」「各種団体」「企業」が密接に連携し、ともに支えあうことで市民総参加の健康づくりを推進できる体制づくりを進めていきます。

### I 一人ひとりが健康づくりを実践

- 市民の主体的な体力づくりや運動の実践の促進
- 生活習慣病の予防、食育の推進、歯・口腔健康づくりの推進、心の健康づくりの推進

### II 人々、地域の絆に支えられた健康づくりの推進

- 運動や介護予防の推進など地域づくり協議会と協働で地域の健康課題に応じた取組みを推進
- スポーツ教室、イベントなど地域ぐるみによる健康増進活動を推進
- 小中学校など教育関係機関、健康づくりや食育等に関連した民間団体等との連携の推進

### III 地域医療体制の充実、地域医療等を支える担い手の育成

- 一次・二次救急医療体制やへき地医療体制の維持確保
- 保健・医療等に係る人材の育成





#### Ⅳ 市民の健康づくりを支える環境づくり

- ウォーキングコースの整備など気軽に運動等ができる環境づくり、公共交通など移動手段の確保による外出を促す環境づくりの推進
- 森林セラピーなどの休養活動の推進、温泉活用健康プログラム等の充実
- 体にやさしい地産地消の推進や民間企業との連携を通じた健康づくりの推進



#### V 高齢社会に対応したサービス提供体制の充実

- 介護予防施策の推進、医療と介護の連携強化、在宅医療と訪問看護の充実等、地域包括ケア体制の強化
- 認知症対策の推進、医療・介護従事者の養成、高度な専門人材の育成の推進
- 介護や子育てと仕事が両立できる環境を整備
- 後見人制度の充実など、新たな公共を担う人材の育成の推進

### 重点戦略 3 山口で生まれ、育ち、学ぶ、いきいき幸せライフ

山口で生まれ、育ち、学ぶことに誇りが持てる環境整備を構築していくとともに、多くの市民が年齢を重ねてもさまざまな交流を通じて多様な能力を発揮し、経験や技術等を次世代に伝承できる場づくりを進めていきます。

#### I 子育て、子育て環境の整備

- 待機児童ゼロに向けた取組みの強化など保育サービス等の充実
- 公立保育園の民間化推進、人材育成を通じた保育・幼児教育の質の向上、園舎の耐震化促進、保育園の施設整備等による定員拡充
- (仮称)やまぐち子育て福祉総合センターの創設、子育て関連施設の整備、地域やNPO等のつながりの強化など地域の子育て支援環境の充実



#### Ⅱ 特色ある“学び”環境の整備

- 学校現場や日常生活で地域の人々に触れ合うことで人々の関係性や地域のコミュニティを大切にする人材育成の推進
- YCAMのメディア技術を活用した教育普及プログラムや芸術作品とのふれあい、情報リテラシーの習得、異文化体験等によるグローバル化に対応できる人材育成の推進



#### Ⅲ 若者、女性、高齢者等の社会参画の促進

- 地域交流センターを拠点に社会教育活動の強化
- 大学と連携した地域人材の育成、高齢者子育て経験者が活躍できる環境の整備
- 保育環境の充実等による女性の就業率の向上、退職者の経験や知識と若者や女性の感覚を結びつけた起業化の支援、市民活動の促進
- (仮称)山口市男女共同参画推進条例の制定に向けた取組み
- 国、県の施策と連携した若者の就職支援やインターンシップの導入
- 高齢者及び障がい者の雇用促進
- 退職者の学習意欲を満たす機会の拡充や、若者等に知識や技術を伝承する場づくりの創出

### 重点戦略 4 市民満足度を高める行政マネジメントの強化

行政経営システムを通じた資源配分の精度を高めていくとともに、本格的な少子高齢化、人口減少社会に対応すべく持続可能なサービス供給体制を構築していきます。また、老朽化した既存ストックの耐震補強、長寿命化、再構築など計画的なマネジメントを行っていきます。

#### I 市民経営、都市経営能力の向上

- ① 成果向上に向けた資源配分の適正化等
  - 定住自立圏、広域経済・交流圏の形成などの広域連携及び道州制を意識した基礎自治体のあり方等の研究
  - 行政経営システムの精度向上、行財政改革の推進
- ② 老朽化した施設の耐震補強、長寿命化
  - 庁舎等公共施設の耐震補強、学校施設の耐震補強(～H27)、非構造部材の耐震補強
  - 老朽化が進む道路、橋梁等の適正な維持管理
- ③ 快適な「居住」空間を実現する生活インフラの整備
  - 汚水処理施設整備構想に基づいた新たな汚水処理体系の研究、導入
  - 汚水処理施設の整備、民間の住宅ストックの活用、民間活力の導入、住み替えなど新たな住宅ニーズに沿った取組みの推進



**重点戦略 5 広域県央中核都市づくり ~広域的な視点に立った都市づくり~**

「山口」「小郡」の両都市核の機能をひとつの総合的な都市力として強化を図っていき、人口60~70万人規模の広域経済・交流圏の中で、広域的かつ高次の経済活動や市民生活等において求心力を発揮し、圏域の発展に貢献できる広域県央中核都市を創造していきます。

**I 高次都市機能の強化、経済産業基盤の整備**

**① 小郡都市核**

- 表口駅前広場、橋上駅舎、南北自由通路など新山口駅ターミナルパークの整備および新山口駅北地区重点エリアの整備
- 都心居住の推進、県道山口宇部線へのアクセス道路の整備



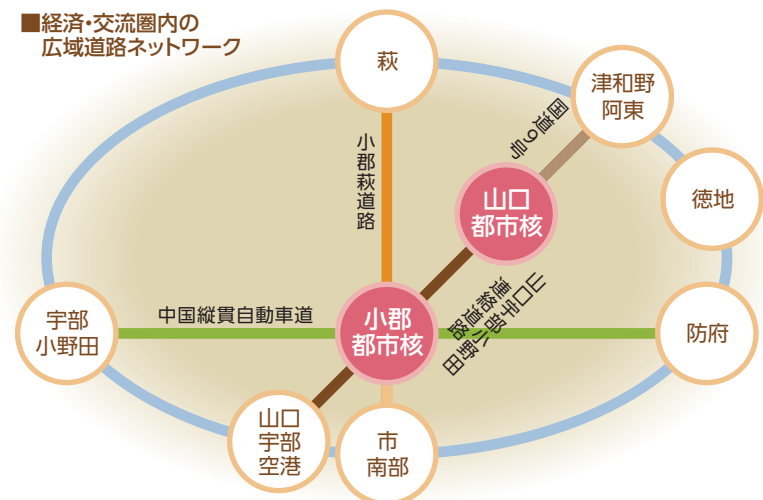
**② 山口都市核**

- 民間主導の再開発や居住環境整備等への支援、空き店舗対策の推進など中心市街地の活性化
- 湯田温泉拠点施設、温泉情緒を醸し出す基盤、モバイル端末対応の情報環境等の整備、および「食」「健康」をテーマにしたソフト事業の展開など広域観光の拠点としての湯田温泉の魅力の創造
- 景観形成および街路・居住環境の整備等の支援、十朋亭の整備・活用、創造的歴史公園の整備など大内文化の歴史ルート、町並み、景観の整備



**③ 広域ネットワークの強化**

- 県道山口宇部小野田連絡道路の整備、由良ICフル化、中国縦貫自動車道 湯田PAスマートICの整備
- 近隣市と都市核を結ぶ広域交通ネットワークの強化、基幹交通の維持、鉄道利用の促進と鉄道駅及び駅周辺の環境整備

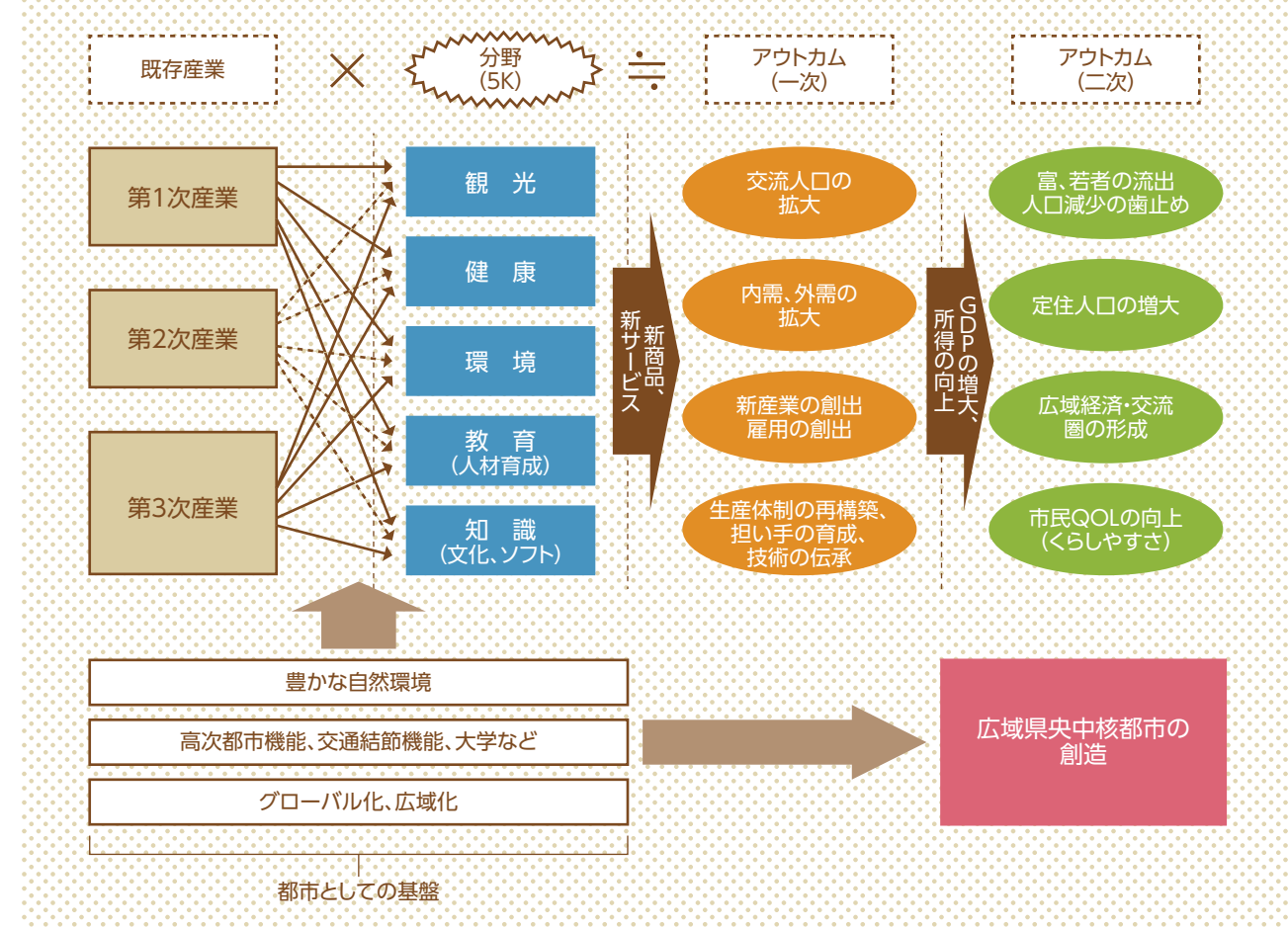


**II 都市の個性を導き出す新たな戦略**

**① 成長戦略の展開**

- 「人」「モノ」「資金」「情報」など市内の経営資源を地域課題に集中的に投下できる機能・体制の整備
- 「観光」「健康」「環境」「教育」「知識、文化」分野における新産業創出の支援、女性及び退職者等の起業支援など新産業の創出

■ 山口市の新たな産業創出等が期待される分野(=6次産業化のフレーム)



- 情報通信技術とそのネットワークを活用したものづくりの再興
- 成長分野をはじめとした企業誘致の推進、企業ニーズに迅速に対応できる受け皿等の整備
- 大学等と連携した人材育成や人材誘致など、都市の成長を担う人材の育成

**② 都市ブランドの構築**

- 山口情報芸術センター・ラボ機能や産業分野との連携の強化など文化的価値の創造と発信
- 東アジアからの誘客と受入態勢の整備、中小企業の海外取引の支援、文化・芸術をテーマにした国際的なネットワーク構築などグローバル化への対応





**重点戦略 6 産業交流力アップ ~山口らしさの創造~**

人々の多様な営みと広域的な市域から生み出される豊富な地域資源や環境資源が結びつき、それらと都市核の高度都市機能が有機的に連携することで、山口らしい経済的な価値や就業の場の創出を図っていきます。

**I 地域資源を活用した地域経済の活性化と雇用創出**

- 農地集積の促進と経営体の基盤強化、営農強化と生産基盤・施設等の整備支援、6次産業化の促進、森林組合等の経営基盤強化、市内産木材等の活用促進、しいたけ等の特用林産物の生産拡大など、農業、林業の経営基盤の強化、担い手の育成
- 日本ジャンボリー、世界スカウトジャンボリー開催支援等参加者に対するおもてなし環境の充実、「SL」「萩往還」等の活用による広域観光の推進など交流人口拡大に向けた取り組み



**II 農林水産資源、環境資源のフル活用プロジェクト**

- 新エネルギービジョンの改定、省エネ機器等の導入促進、新エネルギー創出等に向けた支援、コージェネレーションシステムの導入、木質バイオマスの活用促進等、環境資源の保全と活用
- 地域おこし協力隊等の導入、UJターン希望者の受け皿や空き家バンク制度の充実、集落連携を含む生活機能の確保等に向けた仕組みづくり、小規模農家に対応した小口出荷の促進などを通じた中山間地域の活性化
- 食農文化の創造発信拠点づくり、6次産業化や医農商工連携の促進、地域、生産者(農業や漁業等)のネットワーク形成、海洋資源の活用などの南部ルーラルアメニティづくり
- 一般廃棄物最終処分場や資源物拠点回収施設の整備など地球環境にやさしい取り組みの推進



**【第5章】施策別計画(政策1~8)**

山口市総合計画で目指している将来都市像の実現に向けて、8つの政策で取り組みの方向性を示し、その政策を実現していくための手段として34の施策を設けています。また、政策のねらい(目標)の実現にむけた達成度や進捗状況が分かるように、34の施策にはそれぞれ成果指標や目標値が設定されています。

**政策 1 支えあい健やかな暮らしのできるまち** 健康福祉分野

- 1-① 一人ひとりが健康づくりを行うまち
- 1-② 子どもの健やかな育ちを支えあうまち
- 1-③ 高齢者が生きがいをもちながら暮らすまち
- 1-④ 障がい者が安心して自立した生活ができるまち
- 1-⑤ 地域で支えあう福祉のまち
- 1-⑥ 社会保障で安心して暮らせるまち

**政策 5 機能的な都市基盤が整い、発展していくまち** 都市整備分野

- 5-① 暮らしやすく、美しい都市環境のまち
- 5-② 快適な道路交通網が整ったまち
- 5-③ 市民の生活を支える公共交通が整ったまち

**政策 2 いきいきと子どもが育ち、人がよりよく生きる、文化をはぐくむまち** 教育・文化分野

- 2-① お互いを認めあい、人権を尊重するひと
- 2-② 楽しく学び、生きる力をはぐくむ子ども
- 2-③ 家庭、地域、学校の連携で、すくすくと育つ子ども
- 2-④ 文化、芸術、歴史にふれ、心豊かに生きるひと
- 2-⑤ 生涯を通して学び、よりよく生きるひと
- 2-⑥ スポーツに親しむひと

**政策 6 市民生活を支え、地域の活力を生む産業のまち** 経済・産業分野

- 6-① 地域の特徴を生かした観光のまち
- 6-② 農業がもたらす多彩な恵みを生かしたまち
- 6-③ 森林を守り、育て、生かしたまち
- 6-④ 海・川の豊かな恵みを生かしたまち
- 6-⑤ 地域に活力をもたらす産業創出のまち
- 6-⑥ 市民の暮らしを支える地場産業が元気なまち

**政策 3 安心・安全な暮らしのできるまち** 生活安全分野

- 3-① 災害、緊急事態に備えたまち
- 3-② 消防・救急体制が整ったまち
- 3-③ 交通ルールを守り、交通事故のないまち
- 3-④ 犯罪を防ぎ、犯罪から身を守るまち
- 3-⑤ 水を安心して使えるまち

**政策 7 ともに力をあわせてつくるまち** 自治振興分野

- 7-① 人のきずなでつくるまち
- 7-② 市民と行政の協働によるまちづくり

**政策 4 自然環境と調和した暮らしのできるまち** 環境分野

- 4-① 豊かな自然環境を大切にはぐくむまち
- 4-② 循環型社会の形成をめざし、廃棄物を減らすまち
- 4-③ 汚水を適切に処理し、水環境を守るまち
- 4-④ 衛生的で快適な生活環境のまち

**政策 8 市民の信頼に応える行政経営** 行政経営分野

- 8-① 計画的、効果的な行政経営
- 8-② 公正、確実な事務と市民サービスの向上



政策・施策について、もっと詳しく知りたい場合は……

まちづくりがどの程度進んでいるのかなどを市民の皆さんに分かりやすく伝えることを目的に、施策別計画ごとの進捗を記載した「まちづくり達成状況報告書」を毎年度作成しています。

「まちづくり達成状況報告書」は山口市のホームページに掲載してありますので、もっと詳しくお知りになりたい場合は、そちら(<http://www.city.yamaguchi.lg.jp/cms-sypher/www/info/detail.jsp?id=3712>)をご覧ください。また、市内各総合支所や地域交流センター等でも「まちづくり達成状況報告書」を閲覧できます。

山口市 まちづくり達成状況報告書



### 【第6章】まちづくりの目標(数値によるまちの姿)

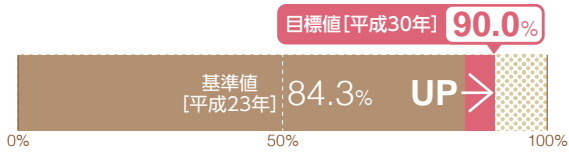
山口市総合計画後期まちづくり計画の最終年度(平成29年度末：平成30年)の姿を数値(目標)で紹介します。

#### まちづくりの総合的な指標 <都市としての総合的な指標>

●住まいの地域の住みやすさ.....市民意識調査



●定住に関する意識.....市民意識調査



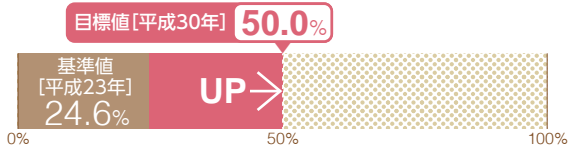
●人口.....国勢調査、市



※市では、平成30年の推計人口を192,500人としていますが、定住化に向けた施策をはじめ、都市としての求心力の強化、経済活性化策等により、人口減少を抑制していきます。

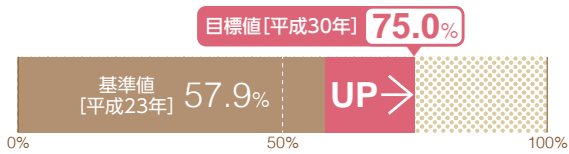
#### 「協働によるまちづくり」に関するもの <人々のつながりや地域への愛着度>

●ボランティアや地域活動への参加割合.....市民意識調査



※協働によるまちづくりを展開していくことで、市民の地域活動や市民活動への参画を促していきます。なお、国は「新しい公共」への参加割合を目標に設定しています。

●災害に対する安全意識.....市民意識調査



※地域防災力を高めていくことで、市民の災害に対する安全意識の向上を図ります。

#### 「広域県央中核都市づくり」に関するもの <都市の活力、求心力>

●交流人口.....市



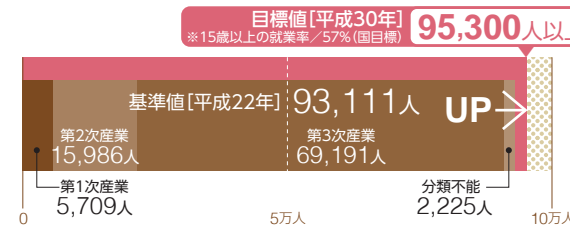
※交流人口については、平成30年の目標を470万人と設定していますが、小郡都市核の新山口駅周辺整備や産業交流機能の導入、広域観光拠点である湯田温泉の魅力創造等により、目標値を470万人から500万人に上方修正します。

●就業人口.....経済センサス



※人口減少に伴い、生産年齢人口の減少が見込まれていますが、都市核の求心力の強化、企業誘致の推進、成長戦略の展開等により、市内における就業の場の拡大を図っていきます。

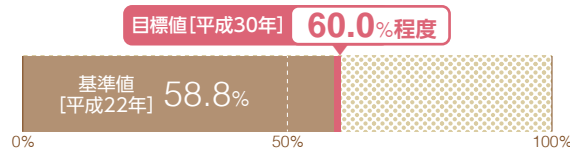
#### 参考 労働人口<国勢調査>



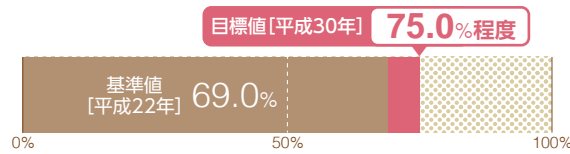
※生産年齢人口が減少する中で、若者、女性、高齢者など、より多くの市民が経済活動等に参加することで、生産、消費の両面から地域経済の活性化を図っていきます。

#### 参考 年代別就業率

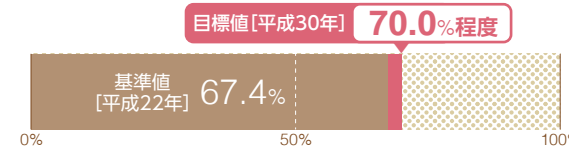
●60～64歳の就業率(男女)



●20～34歳の就業率(男女)



●25歳～44歳の女性就業率



#### 参考 名目GDP<市町経済計算書>



※国の経済活性化策や成長戦略と呼応するかたちで、地域における経済活動を活性化し、新たな経済的な価値を生み出していきます。

#### 都市核等に関するもの <小郡都市核>

●人口.....国勢調査、市



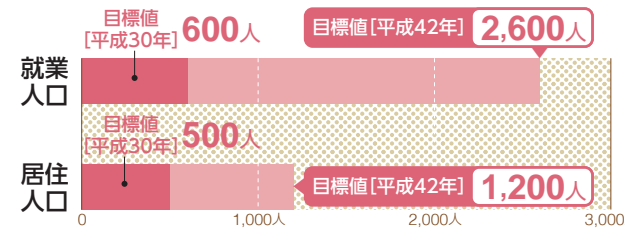
※市では、平成30年の小郡地域の推計人口を約26,000人としていますが、小郡都市核の新たな市街地形成等により居住人口の増加を図っていきます。

●就業人口.....経済センサス、市



※平成30年の小郡地域の推計就業人口は、平成21年に比べ、小郡都市核を中心に増加していくと見込んでいます。今後、小郡都市核の重点エリア整備等を進めていくことで、更なる就業人口の増加を図っていきます。

#### 参考 新山口駅北地区重点エリア整備の目標値(約12ha)



#### 都市核等に関するもの <山口都市核>

●大股、白石、湯田地域の人口.....国勢調査、市



※大股、白石、湯田地域は、人口減少が進んでいますが、中心市街地など山口都市核を中心に、官民が連携して、居住環境の整備、再構築を図っていくことで、中心部への定住増加、コンパクトなまちづくりを進めていきます。

●湯田温泉宿泊客数.....市



※湯田温泉の魅力創造や、新山口駅北重点エリアに導入していく複合的産業振興機能との連携を図ることで、湯田温泉の宿泊客数の増加を図っていきます。

#### 企業誘致に関するもの <市>



※今後成長が見込まれる分野を中心に企業を誘致し、新たな雇用の場を創出していきます。

#### 大学及び短期大学の学生数 <山口県統計年鑑>



※大学等と連携して、知の集積など都市としての価値を高めていくとともに、身近な地域課題の解決に向けた取組みを進めていきます。



## 【第7章】財政見直し

財政計画は山口市総合計画後期まちづくり計画における財政運営の指針であり、計画期間である平成25年度から平成29年度の歳入・歳出の項目ごとに現況や過去の実績等を基礎として算定し、合併に関する国・県の財政支援措置や経費の削減効果、地域経済の活性化に向けた取組み等を反映しています。

### 後期まちづくり計画の推進に向けて

持続可能な財政基盤の確立を図るため、中長期的な財政計画に基づいて税財源を有効活用します。施策の推進にあたっては、行政評価に基づいて選択と集中の視点で重点的に予算資源を配分していくこととします。なお、後期まちづくり計画の効果的・効率的な推進に向けて、山口市総合計画の実行計画の中で毎年度向こう3年間分の計画改訂、事業の優先度の検証、事務事業の見直し等を行ってまいります。

### ■計画期間内の財政計画

						(参考)			
	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成33年
[単位:百万円]									
<b>歳入</b>									
地方税	25,475	25,475	24,894	24,937	24,962	24,454	24,491	24,494	24,023
地方交付税	16,025	16,215	16,291	16,302	16,076	16,112	16,341	16,203	15,892
うち 普通交付税	14,250	14,440	14,516	14,592	14,366	14,402	14,631	14,493	14,182
(一本算定)	(10,446)	(10,636)	(10,769)	(11,282)	(11,817)	(12,614)	(13,603)	(14,169)	(14,182)
(合併算定替による増)	(3,804)	(3,804)	(3,747)	(3,310)	(2,549)	(1,788)	(1,028)	(324)	(0)
国庫支出金	9,998	9,844	10,250	9,538	9,175	8,882	8,903	8,925	8,947
県支出金	4,876	5,030	5,184	5,035	5,003	4,937	4,947	4,958	4,969
地方債	11,585	14,115	15,097	12,923	11,207	8,570	8,213	8,013	7,568
うち 臨時財政対策債	3,830	3,830	3,822	3,786	3,729	3,672	3,615	3,565	3,544
(一本算定)	(3,543)	(3,544)	(3,544)	(3,544)	(3,544)	(3,544)	(3,544)	(3,544)	(3,544)
(合併算定替による増)	(287)	(286)	(278)	(242)	(185)	(128)	(71)	(21)	(0)
その他	8,179	8,408	7,669	7,414	7,353	7,653	7,754	7,754	7,739
<b>歳入合計</b>	<b>76,138</b>	<b>79,087</b>	<b>79,385</b>	<b>76,149</b>	<b>73,776</b>	<b>70,608</b>	<b>70,649</b>	<b>70,347</b>	<b>69,138</b>
[単位:百万円]									
<b>歳出</b>									
人件費	13,834	13,192	13,051	12,825	13,224	13,162	13,302	13,322	13,267
うち 退職手当	1,364	811	627	460	782	805	966	1,035	1,012
扶助費	14,386	14,534	14,685	14,727	14,769	14,812	14,855	14,898	14,942
公債費	9,705	10,468	9,741	9,779	9,469	9,585	10,058	10,369	10,590
繰出金	6,741	6,775	6,809	6,823	6,836	6,850	6,864	6,877	6,891
普通建設事業費	12,366	15,455	16,391	14,554	12,099	9,033	8,717	8,559	7,860
その他	19,106	18,532	18,308	17,165	17,121	16,897	16,853	16,810	16,767
<b>歳出合計</b>	<b>76,138</b>	<b>78,956</b>	<b>78,985</b>	<b>75,873</b>	<b>73,518</b>	<b>70,339</b>	<b>70,649</b>	<b>70,835</b>	<b>70,317</b>
※歳入・歳出とも平成30年～33年は、計画期間後の財政見直しです。									
<b>財政収支</b>									
歳入 - 歳出	<b>0</b>	<b>131</b>	<b>400</b>	<b>276</b>	<b>258</b>	<b>269</b>	<b>0</b>	<b>▲488</b>	<b>▲1,179</b>

## 【第8章】公共的機能の適正配置と公共サービスのあり方等

### 本庁機能等について

広域化した市域の統治のあり方や道州制など地方分権の進展を踏まえ、本庁機能の定義や規模等を整理し検討します。本庁舎の位置については、1市4町の合併協議時の附帯決議に基づき、後期計画期間内において審議組織を立ち上げます。

### 総合支所機能の役割の見直し

地域自治の強化と将来的な地域自治区制度の導入に向けて、地域づくりの進捗状況とそれらを補完する地域振興局、地域交流センターが果たす機能の役割の見直しや強化を図り、総合支所機能の役割の見直しを併せて行っていきます。

### 公共的機能の適正配置とストックマネジメント

「都市拠点」「地域拠点」それぞれの役割に応じた機能の維持・強化、医療や福祉関係などの民間セクターとも連携した公共的機能の適正配置を図っていきます。また、老朽化する施設等の維持管理やバリアフリー化、情報化、公共的機能の統合、窓口の一元化等の機能向上、役割を終えた施設の廃止等の検討・実施を図り、中長期的な視点に立って適切なストックマネジメントを行っていきます。

### 行政コストとの関係性

扶助費等の拡大が予想される中、真に必要なサービスを持続的に提供できる体制や最低限度の生活環境基準を維持していくため、全市域・各地域を対象に行政コスト面からの検証を行います。また、生活拠点や地域拠点の特性に応じて柔軟な公共サービスが展開できる環境整備や、住民自治に基づいた仕組みづくりを構築していきます。

### 計画を推進していくための職員の育成方針

まちづくりの主体として、また市民に最も近い行政主体としての責務を十分に果たしていくために、市および職員は自ら考えアクションを起こしていくことが強く求められています。こうしたニーズに応えていくために、組織としての課題解決力や専門性の向上に向けて職員の資質の向上を図っていきます。また、職員研修や職場内外での経験を通じたコミュニケーション能力、政策形成能力、マネジメント能力の向上に努めていきます。





### 【資料編】地域づくりの方向性

山口市では、より良い地域社会の構築に向けて市民と行政、市民と市民による協働によるまちづくりを推進する中、地域内分権を通じた地域自治の強化を促し、市内21の地域で地域住民と現場に近い職員が相互の信頼関係に基づく協力・連携により、主体的に地域課題の解決や各地域で長年培われた個性・特色が発揮できる仕組みづくりに向けた取り組みを進めています。

各地域では住民自治組織である「地域づくり協議会」を設立され、この地域づくり協議会と地域の活動点である地域交流センターを中心に地域のこれからの取り組みの方向性を示す「地域づくり計画」の策定を進めるとともに、地域活動に対する財政的支援として平成22年度に創設した地域づくり交付金の積極的な活用等を通じて、地域住民による主体的な地域づくりが展開されています。

ここでは、地域が主体となって策定された21の地域の概要と地域づくりの方向性をご紹介します。

**1 吉敷地域**

地域の概要	人口:14,450人
	世帯数:5,620世帯
	面積:26.67km <sup>2</sup>

- 地域の課題としては防災や福祉、環境整備なども挙げることができますが、どんな課題にしても解決に向けて地域での取り組みを推進していくためには住民どうしの連携や協力が前提となると考え、多くの住民が参加・参画しやすい行事の開催および継続により互いに知り合う中でのコミュニケーションの向上を図ります。
- 地域や地域行事への愛着が個人から家族、家族から近所、集落へと地域全体に広がっていくような事業展開(企画・運営)を目指していきます。また、吉敷に伝わる昔話、偉人、名所旧跡などを次世代に伝えるとともに、現在吉敷に住む人々にも知ってもらうためふるさと文化の伝承事業に取り組み、様々な世代の意見を反映しながら「吉敷の個性」について改めて周知したいと考えています。
- 各種事業が円滑に企画・運営できるよう地域内の各種団体との連携を強化し、役割分担の見直しを実施します。

**6 大殿地域**

地域の概要	人口:7,496人	世帯数:3,363世帯	面積:13.07km <sup>2</sup>
-------	-----------	-------------	-------------------------

- 地形等により自主防災組織の必要性に対する意識は異なっていますが、高齢者が多いという状況等も踏まえ町内単位の組織編制にはこだわらず、地域全体で自主防災組織を立上げていくことも考慮し、他の地域の先進事例等の情報提供や防災研修等を継続的に行って地域全体の防災力のレベルアップを図っていきます。
- 共働きの増加により日中は高齢者が一人になってしまう世帯があることから、一人暮らしの高齢者を含め近隣住民等による定期的な見守り活動をきめ細やかに展開していきます。
- 町内会を通じた地域行事等への呼びかけを粘り強く行うことで地域住民同士のつながりを深め、行事や活動等の活性化を推進し、あわせて隠れた人材の掘り起こしにつなげていきます。

**7 白石地域**

地域の概要	人口:9,941人
	世帯数:4,279世帯
	面積:4.71km <sup>2</sup>

- 地域を中心として催されるふるさとまつりへの参加者が年々減少している原因の一つとして、地域への愛着心や関心の不足が考えられます。住民同士のコミュニケーションが密になり地域を意識する機会が増えてくることで、ふるさとまつりやその他の地域活動への参加が促進されることを狙い、愛着心や関心を引く仕掛けについて地域住民で研究・検討していきます。
- 明治維新などの歴史文化をはじめ白石地域の魅力を再検証し、地域づくりのけん引役となるコンテンツを調査・研究し、地域への愛着を育てていきます。
- 町内会は、住民の方々が地域で暮らすうえで一番身近でかわりの深い組織です。現在、そして将来にわたり求められている町内会の役割を今一度再検討し、役割を果たすにふさわしい運営や活動の理想像と実現のための方策について調査・研究していきます。

**8 湯田地域**

地域の概要	人口:12,588人
	世帯数:5,536世帯
	面積:4.09km <sup>2</sup>

- 防災講演会の開催や防災用具等の購入など、自主防災活動を支援していきます。また、警察・消防等の行政関係や地域内団体の協力・連携のもと「湯田地区ふれあい安心安全フェスタ」を開催し、住民の幅広いふれあい・交流の場の創出と安心安全な地域づくりの推進に向けて、住民の自主防災防犯意識の高揚を図っていきます。
- 高齢者対象の学習会や70歳以上の独居対象のふれあい会食会等の開催により交流の場を提供するとともに、65歳以上の独居や75歳以上の高齢者世帯の希望者を対象とした配食サービスを通じて、安否確認だけでなく交流のきっかけづくりを進めています。また、しめ飾りづくりやどんど焼きなどを開催し、伝統行事の継承はもちろんですから高齢者までが世代を越えて交流できるきっかけづくりも進めています。

**9 陶地域**

地域の概要	人口:2,688人
	世帯数:952世帯
	面積:11.52km <sup>2</sup>

- 地域内に陶っ人隊(ボランティア)等を組織していることから、その連携等の可能性も考慮しながら生きがいや活気のある魅力的な地域を目指し、ふれあいサロンの普及等、総合的に住民の福祉に資するよう図っていきます。
- 外出支援対策の一環として、交通弱者に対してどのような支援が出来るのか、過去にも調べた経緯がありますが活用出来る制度の変更等もあることから実際の要望の把握も含め再度調査・検討していきます。
- 防災に対する意識は近年高まってきており、平成24年3月に防災マップを作成し各戸配布したところですが、平成24年度中には災害時の要援護者マップが完成する予定であり、その運用方法を検討しながら自主防災組織の立上げ、既存の防災組織の強化・充実を図っていきます。

**10 名田島地域**

地域の概要	人口:1,410人
	世帯数:498世帯
	面積:8.93km <sup>2</sup>

- 地域づくりの基本理念である「次世代につながる田園都市の創造」に沿って持続可能な地域にするために、まずは経済面を意識した活動に重点を置いて取り組み、その延長線上にある若者の雇用や就業の場につなげていきます。そのため、地域内で最も知名度と求心力のある山口南総合センターを核にして、地域づくりとともに6次産業化をはじめとする様々な協働によるまちづくりを展開していきます。
- 防災対策については過去に多くの尊い命を失った水害の教訓から、毎年8月に自治会連合会主催で地域全体の防災訓練を実施していますが、今後は住民一人一人が「危険を察知して身を守る目を育てる」活動等も取り入れながら地域の防災力の強化を図っていきます。

**2 小郡地域**

地域の概要	人口:24,250人	世帯数:10,156世帯	面積:33.40km <sup>2</sup>
-------	------------	--------------	-------------------------

- 小郡地域のシンボルであるオゴオリザクラの保護・育成活動及びPRのための「オゴオリザクラまつり」の実施や地域住民が協力して開催する「ふしの夏まつり」の実施などにより地域の一体感や地元への愛着感を高める他、新しく住民になった方も参画しやすいまちづくりを進めていきます。
- 単位自治会の自主防災組織の立ち上げ支援や災害時における情報ネットワークの構築を進めていきます。ハード面における対策だけでなく、早く災害の情報を把握して地域において迅速に対応できるよう、「災害に強い」だけでなく「災害に対応できる」まちづくりを進めていきます。
- 多くの人が行き交う交流の要となっている地域なので、随所に花を植えたりごみのポイ捨て問題に対処して美しいまちを維持していきます。

**3 嘉川地域**

地域の概要	人口:6,874人
	世帯数:2,529世帯
	面積:28.87km <sup>2</sup>

- 災害時における地域の対応力向上のため、地域住民一人一人の防災に対する意識の向上、地域内の身近な危険箇所の共通認識、災害時の速やかな対応が可能となる自主防災組織づくりの推進等に取り組んでいきます。また、日常生活での安心・安全の確保が非常時の対応力向上にも繋がるため、里道や水路の改修に取り組むとともに地域内の住民同士の連携強化策や安全設備の改良等も検討していく必要性があります。
- 交通や防犯の危険箇所での立哨や夜間の見回り等の強化を実施するとともに、交通安全や防犯に対する住民の意識向上に努め、危険箇所の定期的な点検にも取り組んでいきます。
- 児童、生徒の登下校時の見守り活動を継続するとともに、より活発な活動とするために学校やPTAをはじめ地域の各種団体等の協力を得ながら活動を進めていきます。

**5 阿知須地域**

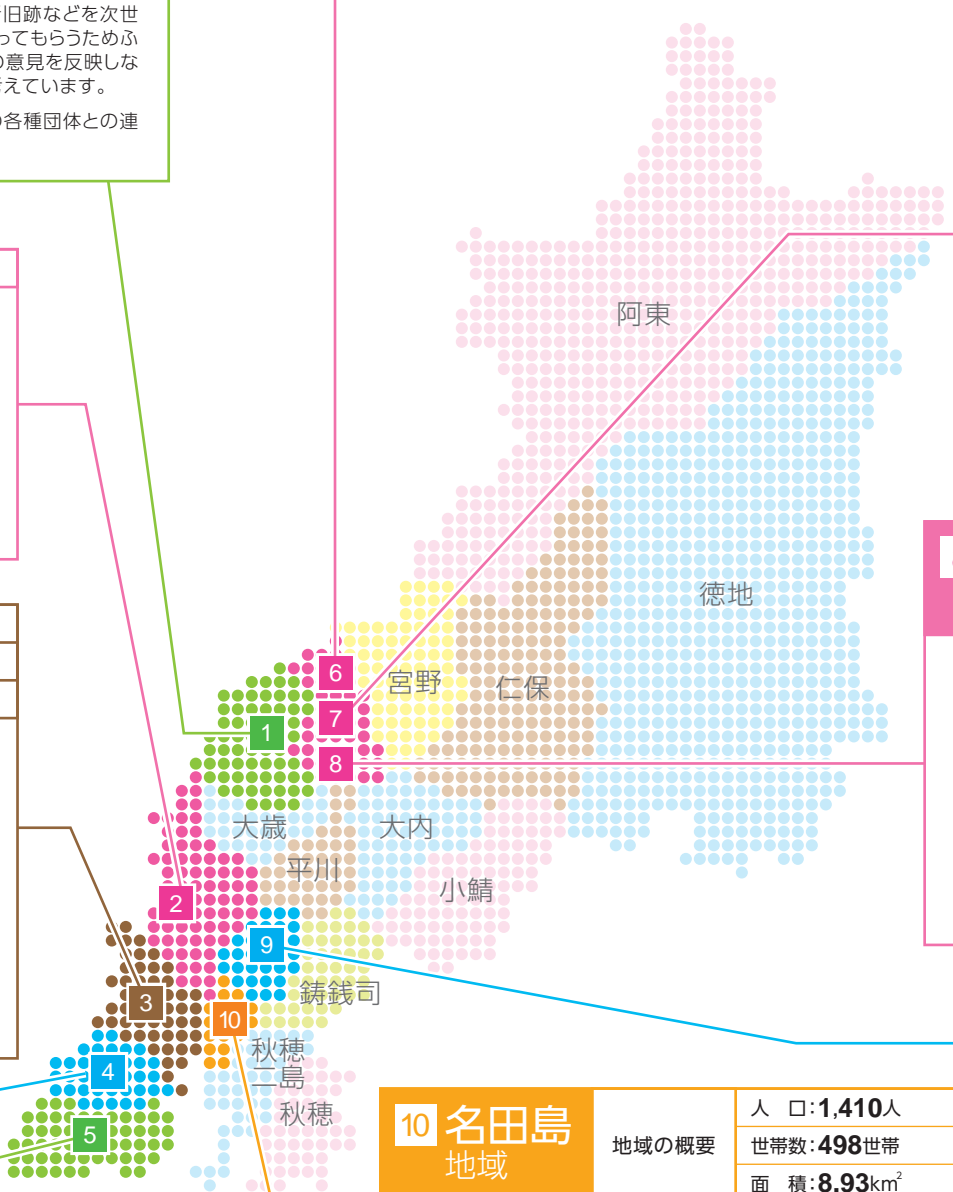
地域の概要	人口:9,176人	世帯数:3,266世帯	面積:25.49km <sup>2</sup>
-------	-----------	-------------	-------------------------

- 各地区の防災意識を高めるため自主防災組織や防災協議会を立ち上げ、地域の特性に応じた防災意識の向上に努めていきます。また、実効性のある防災意識啓発の取り組みなどを行い、地域の防災力の向上を図っていきます。
- 登下校時の子どもの見守り活動の強化や高齢者への交通安全教室などを行うことにより、交通事故発生件数を減少させていきます。
- 臨海部の个性的な地域資源の活用等を通じて魅力的な地域を作ることにより、生産年齢人口の地域外流出の抑制や空き家の解消等を図り、高齢化の歯止めをかけていきます。

**4 佐山地域**

地域の概要	人口:2,833人
	世帯数:994世帯
	面積:12.02km <sup>2</sup>

- 自主防災活動については今後単位自治会等が中心となり草の根的な事業を展開することにより、より一層の組織強化を図ります。また、避難経路の確保については市と地域づくり協議会、単位自治会が連携を図り、現状の把握、事業実施の検討を行います。
- ごみ集積場の諸問題については、地域づくり協議会と単位自治会が連携を図り、現状の把握や対応方法の検討を行います。また、不法投棄の対応としては組織的なパトロールの強化、花壇については国道沿いの緑地帯に新規に整備を行います。
- 子育て支援や高齢者福祉については、NPO法人あいねつと佐山と連携を図り、各種ボランティアやサークル活動の充実を図るとともに老人クラブや子ども会などの各種団体とのタイアップ事業の実施も検討します。また、地域交流センターの各種事業と連携したイベントも検討します。





### 11 宮野 地域

地域の概要	人 口:15,509人
	世帯数:6,494世帯
	面 積:38.42km <sup>2</sup>

●地域の人口は老年人口の増加に起因して増加していますが、いざという時にそなえて日常における他世代との交流や近隣住人との交流・連携が重要となっています。そうしたことから高齢者が安心して暮らせる地域、災害時に於ける人道支援体制等の整った地域、高齢者が生きがいを感じられる地域を目指し、自主防災組織の立ち上げや研修会・避難訓練の実施等を通じて地域住民の防災への関心や支えあいの意識の高揚を進め、自然災害に対応できる地域を目指します。

●PTAや明朗会、地域の有志により宮野キッズ守り隊の活動を活発に行い、また通学路や公園等の安全を確認することによって子どもの登下校が安全な地域、防犯活動が盛んな地域を目指します。

### 12 仁保 地域

地域の概要	人 口:3,579人
	世帯数:1,287世帯
	面 積:72.85km <sup>2</sup>

●高齢者対策の取組みとして、高齢者の認知症予防を含め住民それぞれの認知症に対する認識を高める講座を開催するなど継続的に事業を展開していきます。その他、地域行事の内容を高齢者にも親しみやすいものに変えていくなど、地域全体で高齢者対策に取り組んでいきます。

●自主防災活動の取組みとして、仁保地域全域を対象に自主防災組織を立ち上げ防災意識の啓発や避難訓練などに取り組むとともに、各集落における連絡網の充実などを推進していきます。

●有害鳥獣被害対策の取組みとして、農作物生産に対する被害防止に向け被害発生集落だけでなく仁保全域での協議会を設立し、被害の拡大を防ぐことにより生産意欲の減退を抑制していきます。

### 17 阿東 地域

地域の概要	人口:6,634人	世帯数:2,698世帯	面積:293.08km <sup>2</sup>
-------	-----------	-------------	--------------------------

●地域にとって必要不可欠である環境維持・美化活動を存続させていくため環境保全意識を啓発するとともに、共同・互助・奉仕の精神を高める運動を推進します。また、高齢化が進んだ小規模自治会が増加しているなか様々なイベントを通して地域全体で環境維持・美化に取り組む機運を高め、そのための組織・体制づくりを図っていきます。

●自治会を中心に「地域の絆」を再構築することによって地域全体の防災力を強化しつつ、単独では自主防災が困難な自治会については近隣自治会あるいは地区自治会連合会等との連携を模索し、災害時のみならず平時の防犯面の対応を含め高齢者等災害弱者が安心安全に暮らせる体制づくりを図っていきます。

●将来的な地域の環境維持・美化活動の存続や自主防災力の強化を見据え、自治会の現状調査を実施し再編統合を含め今後自治会のあり方を検討します。

### 18 徳地 地域

地域の概要	人 口:6,771人
	世帯数:2,700世帯
	面 積:290.35km <sup>2</sup>

●各地域の実情により防災に対する意識は異なっていますが、自主防災組織を立上げている集落では実行性の高い活動が持続するように、未組織の集落については組織づくりが促進されるよう指導・助言を行っています。また、情報提供や防災研修等の防災意識啓発の取組みを展開して、地域全体の防災力のレベルアップを図っていきます。

●地域の防犯・交通安全対策については防犯灯の維持管理、交通安全啓発、カーブミラーの清掃活動を実施し、行政とも連携する中で安全な歩行空間の確保、反射鏡の設置等を進めています。

●高齢者・障がい者支援として、通院や買物などの外出時に支障となる道路に面した出入口部分(間口)と玄関先までの通路部分(敷地内)の雪を地域の協力員(ボランティア)が除雪を行っています。

### 13 大歳 地域

地域の概要	人口:13,036人	世帯数:6,054世帯	面積:10.82km <sup>2</sup>
-------	------------	-------------	-------------------------

●平成23年度から各自治会に防災委員を設置し、自主防災組織の設立に向けて防災委員研修会を実施してきました。これにより徐々に自主防災組織が設置されつつあり、今後も防災意識の啓発に取り組み、未設置の自治会での組織化を進めるとともに、大歳地域全体での防災力アップに向けて自主防災組織間の連携が図られる防災組織体制の整備を進めます。

●交通安全対策については、これまで地域団体ごとに実施してきた交通立哨等の活動を地域内で統一して活動する組織的なものへ発展させ、登下校時等における子ども達の見守り活動の充実を進めます。

●高齢者が地域でより安心して生活できるよう近隣住民のつながりを強め、災害時や防犯面において「向こう三軒両隣」で支えていく意識の醸成を図るとともに、地域全体においても関係団体や地域住民等による継続的な見守り活動を展開していきます。

### 14 平川 地域

地域の概要	人口:19,497人	世帯数:10,328世帯	面積:19.61km <sup>2</sup>
-------	------------	--------------	-------------------------

●地域の現状や課題を整理して、地域特性を生かしたまちの将来像と具体的な計画や施策の基本となる平川まちづくりビジョンを山口大学と一緒に策定します。

●平川地域自主防災組織を確立し、災害発生に備えた連絡体制や機材を充実させるとともに災害弱者の支援等ができる体制を整えます。先進事例等の情報提供や防災研修等の防災意識啓発の取組みにより、地域全体の防災力のレベルアップを図っていきます。

●地域で子どもたちを守る活動として見守り活動やあいさつ運動を展開して安心安全につながる運動にし、日頃から地域住民同士のつながりを強めていきます。

●交通安全対策については危険箇所の調査や見守り地点の見直しを行っており、行政とも連携する中で地域への啓発も含め安全対策を進めていきます。

### 19 大内 地域

地域の概要	人口:22,158人	世帯数:8,437世帯	面積:24.92km <sup>2</sup>
-------	------------	-------------	-------------------------

●「ふるさとを愛し、笑顔でふれあうまち大内」をスローガンに、①大内の恵まれた自然の中で、歴史と文化を活かしたまち、②いきいきと子どもが育ち、世代を超えて楽しく交流できるまち、③みんなが支えあい、安心・安全に住みよいまち、を理念にまちづくりを進めていきます。

●大内に残されている自然、歴史的な史跡、大内氏をはじめ地域内で生まれ育った数多くの偉人の業績を後世に伝え、ふるさとに対する誇りと愛着を醸成していきます。

●各町内会単位による河川環境美化、防災組織設立への支援及び児童生徒通学時の安全対策、その他各種イベント等を通し地域コミュニティの維持継続を推進していきます。

●地域だけでは対応できない課題は、地域でできることを考え実行しつつ行政、企業、NPO等とも協働していきます。

### 15 秋穂二島 地域

地域の概要	人 口:2,573人
	世帯数:942世帯
	面 積:16.15km <sup>2</sup>

●地域全体の子育て環境を改善していくために、保育環境については行政とも連携を図る中で充実に向けた検討を引き続き進めていきます。また、地域での子育て支援策を協議・検討し、若者が住みよいまちづくりを推進していきます。

●地域の子育て支援については、その取組みの一環として平成25年度の「つどいの広場」開設を目標に置き、運営体制づくりを進めていきます。また、地域内の団体と協力しながら地域内の子育てサークルと幼稚園の交流活動等を支援していくとともに、地区連合自治会(地域づくり協議会)健康福祉部会を中心に子育て支援に携わる各団体等との連携を深め、地域において安心して子育てができる環境づくりを進めていきます。さらに、幼稚園、小学校及び中学校との連携を密にし、地域活動や地域ボランティアへの積極的な参加を促すことにより子どもたちの「体験学習」や「地域のつながりづくり」を進めていきます。

### 16 秋穂 地域

地域の概要	人 口:7,262人
	世帯数:2,561世帯
	面 積:24.09km <sup>2</sup>

●秋穂の穏やかであたたかい自然・人情を次の世代にも引き継ぎ住みよい秋穂地域をつくるため、「たのSEA秋穂づくり協議会」を軸に組織の活性化や人材育成を図っていきます。また、あいお祭りやあいお花火まつり、お大師まいりやえび狩り世界選手権大会、菜の花まつり、浜村杯秋穂ロードレース大会など秋穂ならではの行事や催しなどを活性化させていきます。

●秋穂の貴重な地域資源である美しい海岸線や山々また身近な環境を守るため、一人ひとりのモラルの向上や組織の育成、活動の支援・実践を継続的に進めます。

●自治会活動や自主防災組織、消防団活動などの活発化を通じて互助社会を構築し、「自らの地域と生命・財産は、自らが守る」ことができる安心・安全な地域づくりをめざします。

### 21 鑄銭司 地域

地域の概要	人 口:3,153人
	世帯数:900世帯
	面 積:20.42km <sup>2</sup>

●一人暮らしの高齢者や子育て世帯等、近隣住民等の助けが必要な方を地域全体で支えていくために見守り活動のようなきめ細やかな様々な活動を強化していくことで、お互いが理解し合い心豊かに安心して住むことができる「福祉のまち 鑄銭司」の推進に努めていきます。

●各集落の実情により防災に対する意識が異なりますが、自主防災組織を立ち上げた集落は継続しやすいよう、まだ立ち上がっていない集落は組織作りに向きになるよう、他地区の成功事例を提供するなどして防災を1つの媒体とした地域全体のコミュニティ活動のレベルアップを図っていきたくと考えています。

●史跡等を生かした事業展開、盆踊り等の伝統芸能の伝承や環境を守り緑を育てるといったように、地域資源を十分に生かしながらあらゆる角度で郷土を愛する地域づくりを進めていきます。

### 20 小鯖 地域

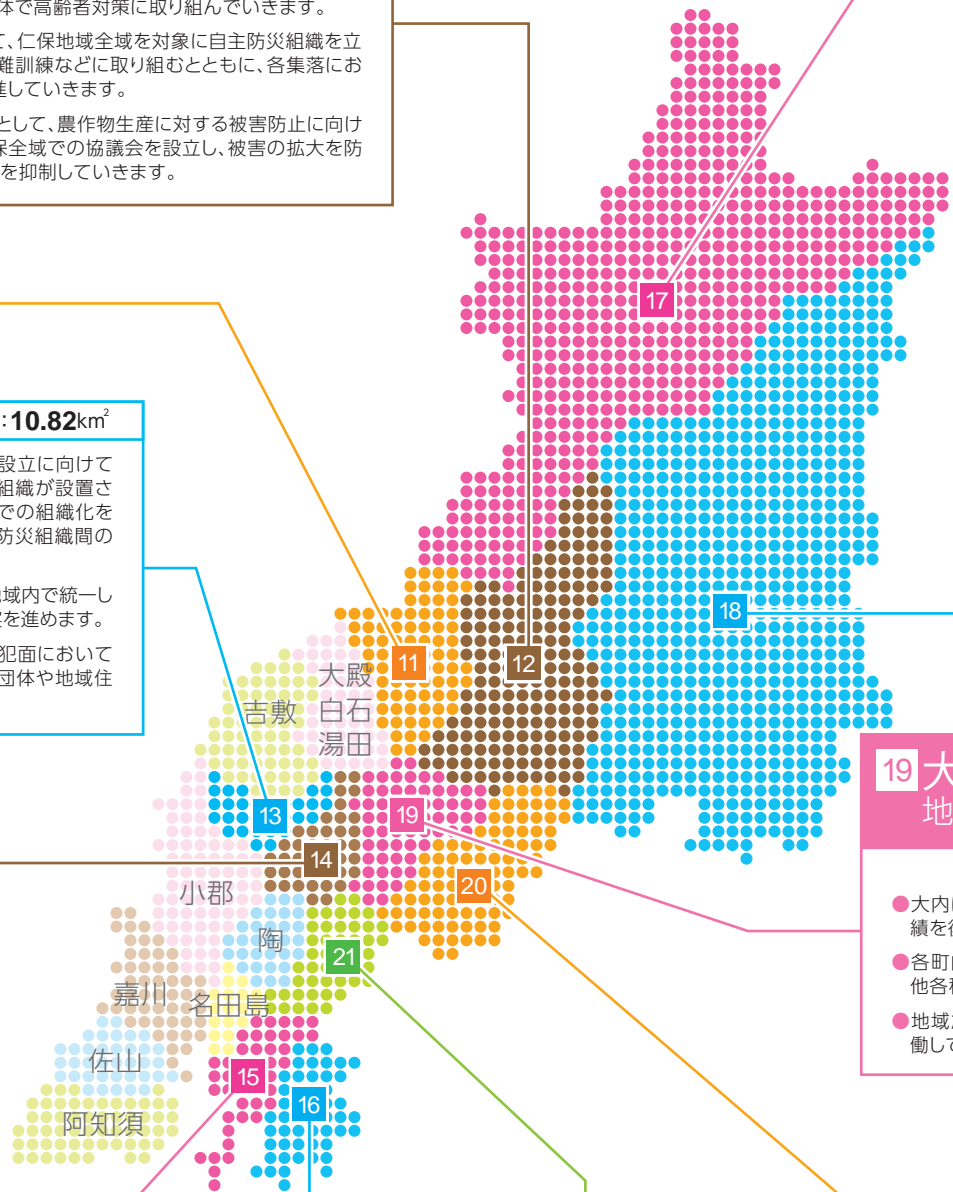
地域の概要	人口:4,768人
	世帯数:1,705世帯
	面積:43.83km <sup>2</sup>

●平成24年5月に地域住民を対象としたアンケートを実施し、地域課題や要望など幅広く意見を収集しました。その後、住民座談会を経てその結果を反映した地域づくりを進めていきます。

●運動会や夏祭りなどの地域の伝統行事の継続やあいさつ運動の推進など、地域内の交流を積極的に進めます。

●安心して暮らせる地域の推進として、防災面では訓練の実施や自主防災組織のない単位自治会の解消、その先に地域全体の包括的な防災組織の構築を検討します。

●交通弱者に対する対策は、行政との協働を視野に入れながらニーズの把握や事業の検討を行う必要があります。また、これら高齢者支援をも含めた地域活動を積極的に支援する包括的なボランティアの育成について、組織や運営についての検討を進めます。



表紙は、まちを形成するコンテンツ(建築物等)をちりばめたデザインとしていますが、イラストの中には山口市が跨る地域資源をいくつか盛り込んでいます。  
 ●SL「やまぐち」号 ●瑠璃光寺五重塔 ●湯田温泉白狐 ●きららドーム ●周防大橋 ●山陽新幹線N700系 ●滑の三本杉 ●徳佐りんご園





山口市総合政策部企画経営課

〒753-8650 山口県山口市亀山町2-1

TEL.(083)934-2747 FAX.(083)934-2642

E-mail kikaku@city.yamaguchi.lg.jp

山口市

検索